

1 社会・地歴・公民科における思考力・判断力・表現力の育成と評価の実態

(1) 言語活動の充実の考え方

社会・地歴・公民科における言語活動の充実とは、「地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視すること」である。これを表1のように4視点で整理した。

表1 4視点で捉えた言語活動

読み取り	社会的事象に関する事実を調査・見学や地図、統計など各種の資料等を基に読み取る活動
解釈	社会的事象のもつ特色や意味、意義について各種の資料等を基に考察する活動
説明	社会的事象の特色や事象間の関連を各種の資料等を基に考察し、表現する活動
論述	社会的事象について、各種の資料等を根拠に自分なりの考えを表現する活動

これらの言語活動を学習の指導計画に位置付け、意図的・計画的に指導を行うとともに、児童生徒の「思考・判断・表現」を的確に評価し、それを指導に生かすことが重要である。

(2) 実態調査の結果と考察

平成23年度に実施した実態調査から、社会・地歴・公民科における言語活動と評価の状況について以下のことが明らかになった。

まず「社会的な思考・判断・表現」の評価に用いる資料については、全校種において「記述式のテスト」や「授業中のノートやワークシート」など記述されたものを評価することが多いことが分かる(図1)。

次に、「評価を行う際にどのようにして行っているか。」という問いに対して、「社会的な思考・判断・表現」において、「評価規準により判断」しているという回答が全校種の半数を超えている。一方、「十分満足できる」「おおむね満足できる」状況を「判断するための基準を定め判断」しているという回答は少ない(図2)。

実態調査の自由記述においても、「評価する基準の設定が難しい」や「基準が妥当かどうか判断しにくい」などの意見が多いことから、客観的な評価が難しいという現状があると考えられる。

これらの状況を踏まえ、児童生徒の思考や判断が最終的に表現される「説明」「論述」の言語活動において、目標の達成状況を判断する基準(「判断基準」)を定めておくことができれば、「思考・判断・表現」の評価を的確に行うことができるのではないかと考え、「判断基準」の適切な設定、「判断基準」を踏まえた指導と評価について研究してきた。

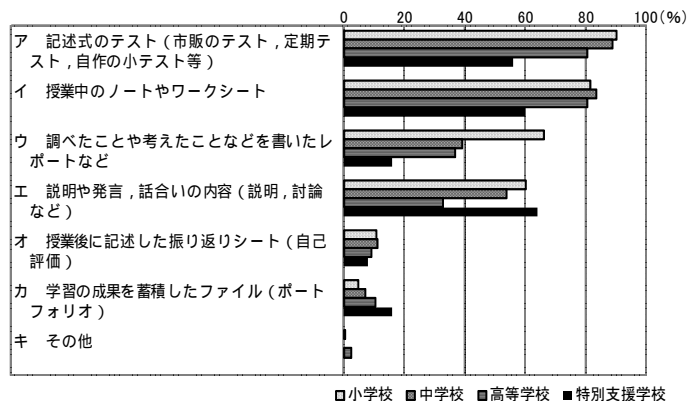


図1 社会・地歴・公民科における評価の資料

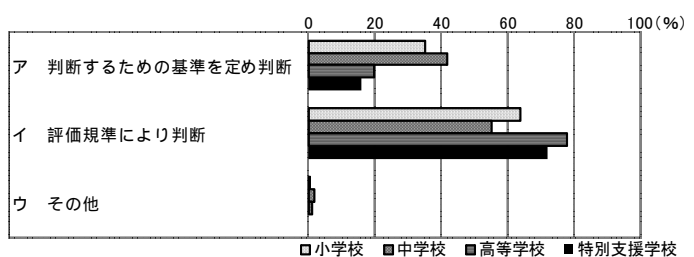


図2 社会・地歴・公民科における評価の判断

2 社会・地歴・公民科における「思考・判断・表現」の評価

(1) 「思考・判断・表現」の観点

「判断基準」を設定する際は、「思考・判断・表現」の観点の趣旨を踏まえなければならない。次は、社会・地歴・公民科における「思考・判断・表現」の観点の趣旨である。

観点	社会的な思考・判断・表現		思考・判断・表現	
校種	小学校 [社会科]	中学校 [社会科]	高等学校 [地歴科]	高等学校 [公民科]
趣旨	社会的な事象から学習課題を見いだして追究し、社会的な事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的な事象から課題を見いだし、社会的な事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見いだし、社会的な事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

(『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』国立教育政策研究所 下線は当教育センターによる。)

これによれば、どの校種においても、社会的な事象から課題を見いだす過程、考察する過程、社会的な事象のもつ意味や意義を判断する過程があり、その過程や結果を適切に表現するとされている。つまり、社会・地歴・公民科における「思考力・判断力・表現力」は、問題解決あるいは課題追究の過程で思考・判断する力、そして、それを表現する力のことを指していると考えることができる。

(2) 「判断基準」の設定の在り方

「思考・判断・表現」の観点の趣旨を踏まえ、その的確な評価を行うための「判断基準」による評価の流れについて述べる。

まず、単元の目標を踏まえて、評価規準を作成する。次に、評価規準を分析的に表した「判断の要素」を明確にする。そして、「判断の要素」からどのような内容を、どのような目安で評価するかを具体化した「判断基準」を設定する。また、あらかじめ児童生徒の表現例を想定しておくことで、実態に応じた評価が可能になる。このようにして設定した「判断基準」を指導と評価の計画に位置付け、指導と評価を行う(図3)

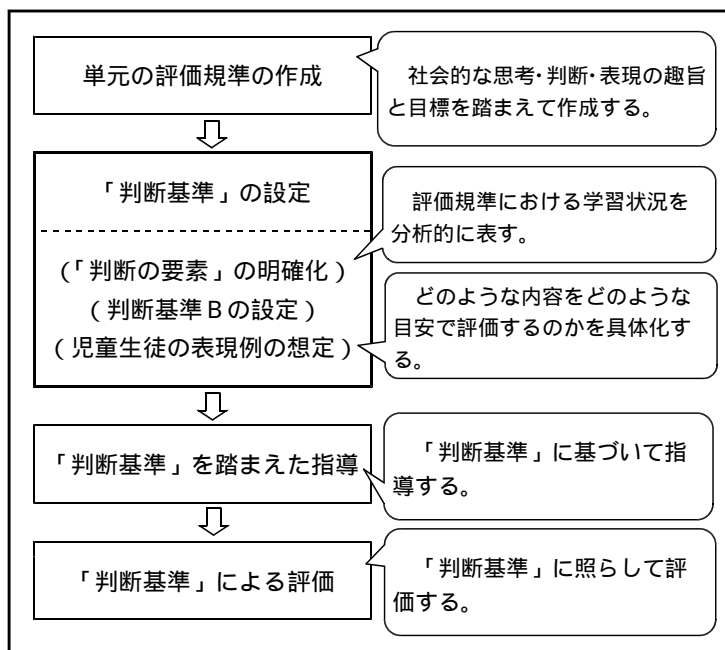


図3 「判断基準」による評価の流れ

なお、社会・地歴・公民科においては、まず、習得した「基礎的・基本的な知識、概念」を踏まえて社会的な事象の意義や特色、事象相互の関連等を多面的・多角的に考察することが重要である。その際、各種の資料等を基にして読み取り、解釈、説明、論述等の言語活動を行うことが求

められる。そこで「判断の要素」を明確にする際には、右に示すように「基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断」と「4視点で捉えた言語活動」から設定することとした。このように「判断の要素」を多面的に分析しておくことで，児童生徒の社会的な思考・判断・表現をよりの確に評価することができると思う。

判断の要素	「基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断」
	「4視点で捉えた言語活動」 (読み取り，解釈，説明，論述)

次に「判断基準」の設定例を示す。

【「判断基準」の設定例（小学校 第6学年「新しい時代の幕開け」）】

評価規準【思考・判断・表現】	
我が国が欧米に追いつくために，政治制度の整備や社会制度の改革を実施するなどの近代化を進めたことや，それによって人々の暮らしが大きく変化したことを適切に表現している。	
評価時期及び評価の対象	
本時（9/9）における終末時 学習問題に対して児童がまとめた内容（ワークシート）	
判断の要素	
ア 基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断 近代化の推進の理由 人々の暮らしの変化 イ 4視点で捉えた言語活動 説明（日本の近代化について各種の資料を基に表現）	
尺度	判断基準
B	ア 基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断 西洋に追いつくため 西洋風になったこと イ 4視点で捉えた言語活動 近代化の推進と，人々の暮らしの変化に関する資料から読み取ったり解釈したりしたことを基に表現している。
	（予想される児童の表現例） 明治政府が様々な改革を行い近代化を進めたのは，西洋に追いつくためです。また，人々の暮らしは，近代化によって，西洋風に大きく変わりました。 （岩倉使節団，教育の普及などに関する資料を基に考察）
C 状況の生徒への指導	判断基準 B を基に補充指導を行う。 ・ ノートやワークシートで社会的事象の意味を再度振り返らせる。 ・ 岩倉使節団の写真などを具体的に提示し，学習を振り返らせる。
A	（判断基準 B に加えて） 江戸時代との比較を通して解釈・説明している。 外国との関係から解釈・説明している。 など
B 状況の生徒への指導	判断基準 A を基に深化指導を行う。 ・ 江戸時代の江戸の様子，明治時代の東京の様子を示す資料を比較させて，どのような点が変化したのかを考えさせる。 ・ 外国との関係はどうであったのかを考えさせる。 など

本時の目標をおおむね達成できた状況を，基礎的・基本的な知識，概念の活用との関連が見えるように留意して，具体化する。

単元のどの時期に，何をを用いて評価するのかを明確にする。

評価規準を満たしているかを判断する際のポイントを箇条書きする。

判断の要素の各項目について「おおむね満足できる」B 状況として，言語活動の状況を具体化する。

判断基準 B を満たしていると客観的に判断される具体的内容を児童の言葉で想定する。
目標達成の具体的イメージをもって評価し，指導に生かす。

判断基準 B を満たしていない児童に対して，基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断について，補充指導を行う内容を明確にする。

判断基準 B を基に，より質の高い思考・判断・表現であると判断できる（「十分達成された」と評価できる）状況を示す。

3 「判断基準」に基づく指導と評価

(1) 「判断基準」に基づく指導の考え方

社会・地歴・公民科においては、問題解決的な学習を行う中で、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成する必要があるが、単元あるいは一単位時間の最初に設定した問題に対する結論を導く過程において、読み取り、解釈、説明、論述等の言語活動を充実させることが重要である。前頁で示した小学校の事例では「判断基準」に基づく学習計画を次のように作成した。

過程	時	主な学習活動	言語活動
つかむ	1	本単元における学習問題を設定する。 明治政府は、なぜ近代化を進め、それによって人々の暮らしはどう変化したのだろうか。	読み取り 解釈
たてる	2	学習問題に対する予想を立て、調べたいことを出し合い、追究の柱を立てる。 明治政府はどのような国づくりを目指し、どのような改革を行ったか 明治時代になって、町の様子や人々の暮らしは、どう変わったか。	解釈 説明
調べる ・ 考える	3 、 7	追究の柱について、資料を基に調べ、自分なりに考えを深める。 (1) 黒船がきた (2) 新しい政府をつくる (3) 西洋に追いつけ (4) 人々の暮らしが変わった (5) 自由民権運動が広がる (6) 国会が開かれる	読み取り 解釈 説明
まとめる ・ 広げる	8 9	調べたことを自分なりに解釈してまとめ、グループ内で説明する。 グループ内で説明し合ったことを基に、再度、学習問題に対する自分の考えを記述し、全体で発表する。	解釈 説明 説明 論述

(2) 「思考・判断・表現」の見取りと補充・深化指導

この事例では、第1時に設定した学習問題に対し、「調べる・考える」過程の各時間において明治政府の政策や、社会の変化について解釈させている。第9時でそれらを総合して表現したものを評価することになる。

また、評価後は、児童の学習の達成状況に応じて、補充指導あるいは深化指導を行う。

	児童の表現例	評価と補充・深化指導
C 状況の児童への指導	【判断基準Bによる見取り】 明治政府は廃藩置県、 <u>四民平等</u> 、 <u>富国強兵</u> などの政策を行いました。大日本帝国憲法がつくられたり、国会ができました。 また、 <u>文明開化</u> によって、 <u>人々の暮らしが西洋風に大きく変わりました。</u>	〔評価〕 判断基準BのAの「人々の暮らしの変化」については述べているが、「近代化を推進したのはなぜか」という考察がなされていないため、C状況と判断した。 〔補充指導〕 それぞれの理由や根拠を資料から読み取って考察するよう指導した結果、B状況となった。
B 状況の児童への指導	【判断基準Bによる見取り】 明治政府が地租改正、殖産興業などの様々な政策を進めたのは、 <u>欧米に負けない強くて豊かな国をつくるためです。</u> また、 <u>文明開化</u> によって人々の暮らしは西洋風になりました。	〔評価〕 判断基準BのAの の内容を資料を基に述べており、B状況と判断した。 〔深化指導〕 江戸時代との比較や外国との関係の視点を与え、明治維新の意義について更に深く考察させる深化指導を行った結果、A状況となった。

【平成24年度調査研究発表会】
第2分科会（社会・地歴・公民科）研究発表

思考力・判断力・表現力を育成する
指導と評価に関する研究

鹿児島県総合教育センター

1

第2分科会（社会・地歴・公民科）研究発表の内容

1 社会・地歴・公民科における**思考力・判断力・表現力**
の育成と評価の実態

- (1) 言語活動の充実の考え方
- (2) 実態調査の結果と考察

2 社会・地歴・公民科における「**思考・判断・表現**」の評価

- (1) 「思考・判断・表現」の観点
- (2) 「判断基準」の設定の在り方

3 「**判断基準**」に基づく指導と評価

- (1) 「判断基準」に基づく指導の考え方
- (2) 「思考・判断・表現」の見取りと補充・深化指導

4 研究の成果と課題

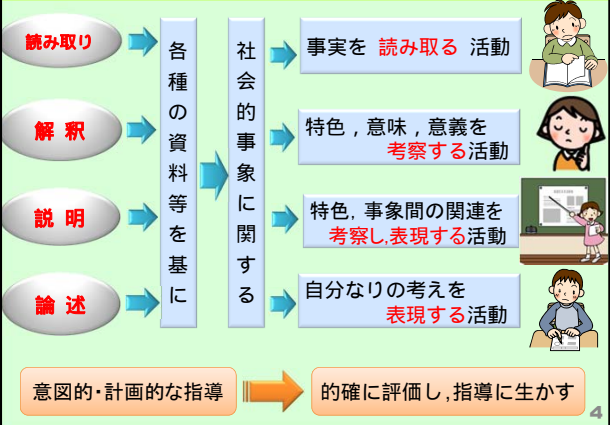
2

1 社会・地歴・公民科における思考力・
判断力・表現力の育成と評価の実態



3

4 視点で捉えた言語活動



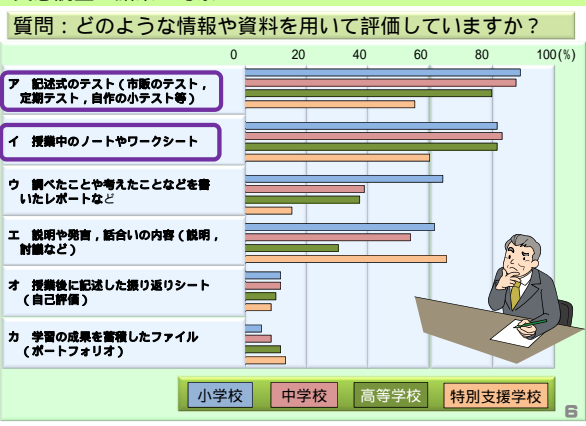
4

「思考・判断・評価」の観点の趣旨

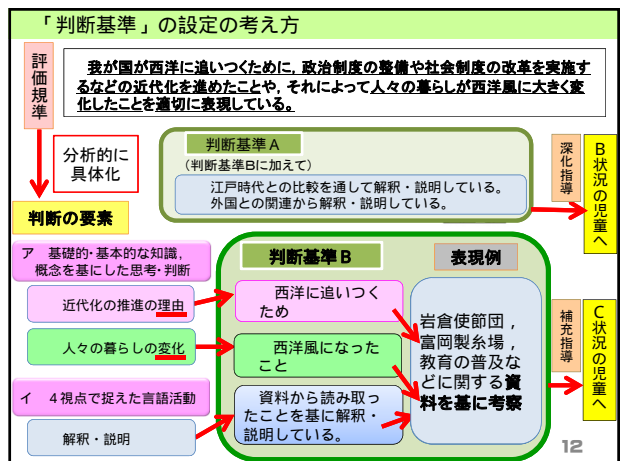
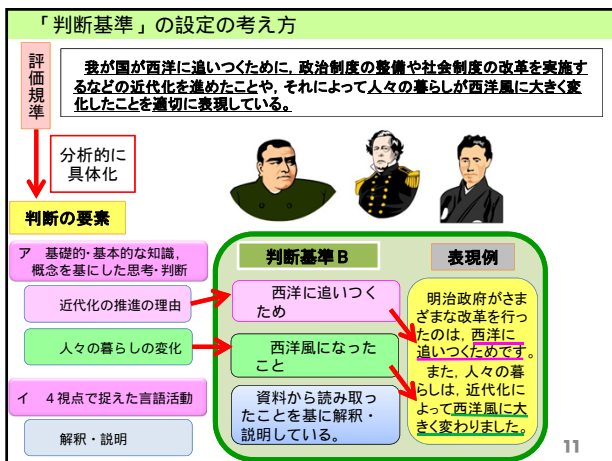
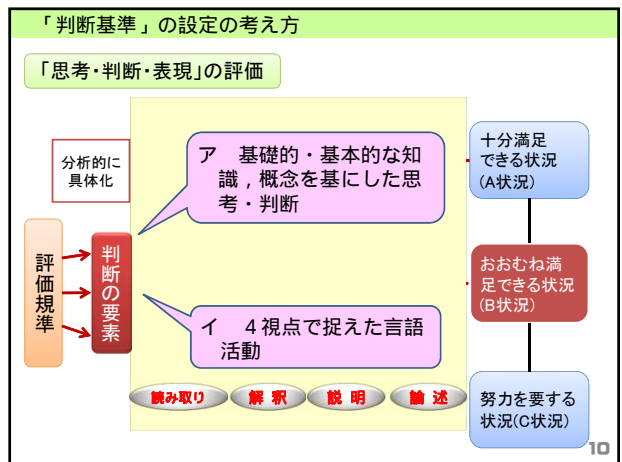
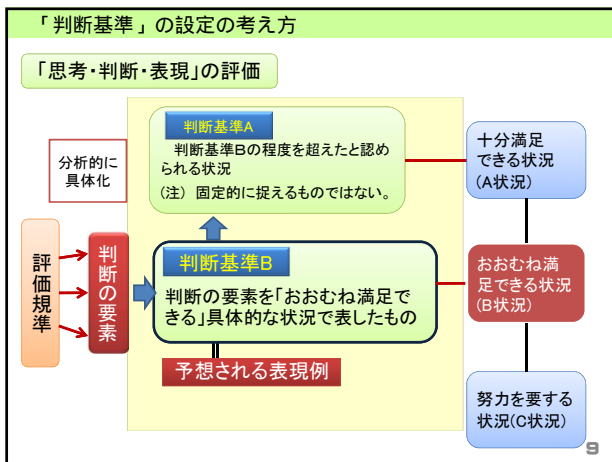
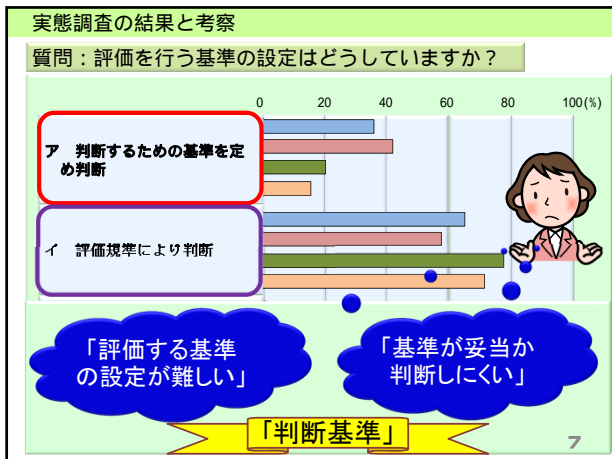
	小学校	中学校	高等学校	
			[地歴科]	[公民科]
社会的現象から学習問題を見いだす	社会的現象から課題を見いだす	社会的現象から課題を見いだす	歴史的・地理的事象から課題を見いだす	現代の社会と人間に関わる事柄から課題を見いだす
思考	多面的・多角的に考察	多面的・多角的に考察	多面的・多角的に考察	多面的・多角的に考察
判断し	社会の変化を踏まえ公正に判断して	国際社会の変化を踏まえ公正に判断して	社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して	社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して
適切に表現している。	その過程や結果を適切に表現している。	その過程や結果を適切に表現している。	その過程や結果を適切に表現している。	その過程や結果を適切に表現している。

5

実態調査の結果と考察



6



3 「判断基準」に基づく指導と評価



13

「判断基準」に基づく指導と評価

小単元「新しい時代の幕開け」の指導計画

過程	時	主な学習活動
つかむ	1	本単元の学習問題を設定する。
たてる	2	学習問題に対する予想を立て、追究の柱を立てる。
調べる・考える	3 5 7	追究の柱について、資料を基に調べ、自分なりに考えを深める。
まとめる	8	調べたことを自分なりに解釈してまとめ、グループ内で説明する。
広げる	9	グループ内で説明し合ったことを基に、再度、学習問題に対する自分の考えを記述し、全体で発表する。

14

「判断基準」に基づく指導と評価

「判断基準」に基づく指導の実例

過程	時	主な学習活動
つかむ	1	本単元の学習問題を設定する。 【学習問題】 明治政府は、なぜ近代化を進め、それによって人々の暮らしは <u>どう</u> 変化したのだろうか。

江戸時代の寺子屋の様子

明治時代の学校の様子

なぜこんな風に変ったのだろうか？

学校以外の暮らしはどうか変わったのだろうか？

15

「判断基準」に基づく指導と評価

「判断基準」に基づく指導の実例

過程	時	主な学習活動
つかむ	1	本単元の学習問題を設定する。 【学習問題】 明治政府は、なぜ近代化を進め、それによって人々の暮らしは <u>どう</u> 変化したのだろうか。
調べる・考える	3 5 7	追究の柱について、資料を基に調べ、自分なりに考えを深める。 (1) 黒船がきた (2) 新しい政府をつくる (3) 西洋に追いつけ (4) 人々の暮らしが変わった (5) 自由民権運動が広がる (6) 国会が開かれる
まとめる	8	調べたことを自分なりに解釈してまとめ、グループ内で説明する。
広げる	9	グループ内で説明し合ったことを基に、再度、学習問題に対する自分の考えを記述し、全体で発表する。

岩倉使節団

この人々は、どんな目的で西洋に行ったのかな？

16

「判断基準」に基づく指導と評価

「判断基準」に基づく指導の実例

過程	時	主な学習活動
つかむ	1	本単元の学習問題を設定する。 【学習問題】 明治政府は、なぜ近代化を進め、それによって人々の暮らしは <u>どう</u> 変化したのだろうか。
調べる・考える	3 5 7	追究の柱について、資料を基に調べ、自分なりに考えを深める。 (1) 黒船がきた (2) 新しい政府をつくる (3) 西洋に追いつけ (4) 人々の暮らしが変わった (5) 自由民権運動が広がる (6) 国会が開かれる
まとめる	8	調べたことを自分なりに解釈してまとめ、グループ内で説明する。
広げる	9	グループ内で説明し合ったことを基に、再度、学習問題に対する自分の考えを記述し、全体で発表する。

伊藤博文は、西洋のような近代国家をめざして、大日本帝国憲法をつくりました。

明治政府は、なぜ近代化を進め、それによって人々の暮らしはどう変化したのだろうか。
どの資料を基にして考えたのかな？

17


「判断基準」に基づく評価と補充指導

判断基準日	ア 基礎的・基本的な知識、概念を基にした思考・判断	西洋に追いつくため	✗
	イ 4視点で捉えた言語活動	西洋風になったこと	
児童の表現例 (1)	<p>明治政府は廃藩置県、四民平等、富国強兵などの改革を行いました。大日本帝国憲法がつくられたり、国会ができました。また、文明開化によって、人々のくらしが西洋風に大きく変わりました。</p>		✗
	<p>社会的事象を羅列しているだけで、資料から読み取ったことを踏まえて考察していない。</p>		

C 状況

18

「判断基準」に基づく評価と補充指導



補充指導

西洋を見てきた伊藤博文が、大日本帝国憲法をつくったのはなぜだったかな？

児童の表現例 (1)

明治政府は廃藩置県、四民平等、富国強兵などの改革を行いました。大日本帝国憲法がつけられたり、国会ができたりしました。また、文明開化によって、人々のくらしが西洋風に大きく変わりました。

明治政府は、西洋に負けない強くて豊かな国をつくるために近代化を進めました。

B 状況

19

「判断基準」に基づく評価と深化指導

判断基準A

(判断基準Bに加えて)

江戸時代との比較を通して解釈・説明している。外国との関連から解釈・説明している。

児童の表現例 (2)

明治政府が地租改正、殖産興業などのさまざまな政策を進めたのは、西洋に追いつくため、強くて豊かな国づくりをめざしたからです。また、近代化によって人々の暮らしは西洋風になりました。

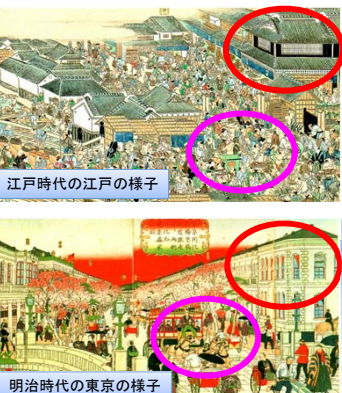
「地租改正」、「富岡製糸場」、「明治時代の学校の様子」などの資料から、解釈し、説明している。

B 状況

20

「判断基準」に基づく評価と深化指導

深化指導



比較できる資料は他にはないかな？

江戸時代の江戸の様子

江戸時代と明治時代はどこが違うかな？

明治時代の東京の様子

21

「判断基準」に基づく評価と深化指導

判断基準A

(判断基準Bに加えて)

江戸時代との比較を通して解釈・説明している。外国との関連から解釈・説明している。

児童の表現例 (2)

明治政府が地租改正、殖産興業などのさまざまな政策を進めたのは、西洋に追いつくため、強くて豊かな国づくりをめざしたからです。また、近代化によって人々の暮らしは西洋風になりました。

(江戸時代の様子と明治時代の様子を比べると) 石やレンガで作られた洋風の建物や、洋服の人が増えたことから、暮らしが西洋風に変化したことがわかりました。

A 状況

22

4 研究の成果と課題

成果

「判断基準」を設定することで

- 児童生徒の「思考・判断・表現」を的確に評価できる
- 補充指導や深化指導を行う際に活用できる
- 授業の視点を明確にでき、授業中の指導に生かせる

ということを明らかにすることができた

課題

△ より効果的・効率的な指導と評価に向け、教材の特性や児童生徒の実態に応じた判断基準の設定、補充指導や深化指導についての実践と検証を重ねる必要がある。

23

事例 1

「思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価に関する研究」
～第5学年「これからの食料生産」における言語活動の充実を通して～

曾於市立岩川小学校
教諭 藤本 慶

研究実践の視点

1 主題設定の理由

平成23年度から実施されている学習指導要領では、「言語活動の充実」が重視されている。評価の観点も以前の「社会的な思考・判断」から「社会的な思考・判断・表現」に変更され、「調べて考えたことを表現する力」を一層重視することが求められている。

言語活動の充実に向けては、社会科における言語活動の4視点、すなわち「読み取り」「解釈」「説明」「論述」に基づいた学習指導の実践が様々な形で行われている。社会科においても単元における意図的な言語活動の設定により、児童が自分で思考・判断・表現する場面が増え、資料を見比べたり、社会的事象を関連付けたりすることができるようになってきた。

「思考・判断・表現」における評価においては、「判断基準」を設定したことで、これまで判別が曖昧で難しかった評価を具体的な視点をもって行うことができるようになった。しかし、児童自身に様々な学習活動を通じた「思考・判断・表現」の力がまだ十分に育っているとは言えない。また、教師自身も児童に「思考・判断・表現」の力を育成する「判断基準」を生かした指導の在り方に課題が残った。

そこで、今年度は「判断基準」に基づいた指導と評価の在り方を中心に研究を進めていくことにした。

2 「思考・判断・表現」の評価について

児童の思考等の高まりを的確に評価するため、言語活動等における観点別の評価規準の設定に加え、児童の思考・判断の過程やその結果としての表現を質的な面から適切に評価するために、思考・判断・表現の学習状況をより分析的に具体化した判断の要素から「判断基準」を設定し、評価を行うことにした。

「判断基準」の設定においては、「おおむね満足できる(B)」状況の尺度を示していくとともに、B状況の尺度においては、予想される児童の表現内容等も併記する。児童の言語活動を通じた思考・判断の過程やその結果としての表現を見取り、判断基準Bに照らして評価するとともに、判断基準Bを満たしていない児童には補充指導を、判断基準Bを満たしている児童には深化指導を行うことにした。

研究の実際

1 教材観，児童観，指導観

(1) 教材観

第5学年の本単元は「我が国の農業や水産業について，様々な食料生産が国民の食生活を支えていること，食料の中には外国から輸入しているものがあることについて調査したり，地図や地球儀，資料などを活用したりして調べ，それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えるようにさせる」ことをねらいとしている。

これまでの学習では，稲作，水産業について扱い，日本の食料生産の特色や働く人の工夫や努力，悩みや願いについて考えてきており，食料生産についての関心を高めてきた。本単元は，日本の食料生産の現状や課題について統計資料や写真資料等を活用しながら調べることを通し，食料生産と自然環境の関わりについて理解するとともに，世界の食料生産の様子や食料確保のための課題と工夫について考える単元でもある。日本の食料自給率は，1965年時点で73%あったものが現在は約40%に下落しており，約60%を外国からの輸入に頼っている。食料自給率がここまで低くなったのには様々な要因が考えられるが，このことは，国民の食生活だけでなく他国との関係や環境等の面からも我が国にとって大きな問題である。

本単元の学習を通して，この問題を児童が自分たちの問題として捉え，生活と結び付けながら多面的に考えていけるようにしたい。

(2) 児童観

本学級の児童の多くが社会科の学習に関心をもち，意欲的に学習に取り組んでいる。特に，調べ学習では，追究の柱に沿って進んで様々な資料を見ながら学習を進めている。社会科の学習の進め方にも慣れてきており，教科書や資料集，その他の資料から関連する事項を見付け，問題解決を図ろうとする態度が少しずつ身に付いてきている。

しかし，追究場面での関連する資料の読み取りや情報の取り出し，読み取ったことから自分の考えをまとめる力は，まだ十分ではない。また，追究結果や自分の考えと友達の追究結果や考えを比較・関連・総合して考えたり判断したりしながら社会的事象の意味をより広い視点で考える力も十分に育っているとは言えない。

そこで，問題解決に必要な資料の提示や発問の工夫を行うことで，児童の問題意識を高め，視点をもたせた追究活動に取り組みせ，個々の追究結果や考えを比較・関連・総合して考察したり判断したりする場面を設定することで，社会的事象の意味や背景，解決策を表現させていくようにしたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては，児童の思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動の状況を見取り，的確な評価を行うことで，補充・深化指導の充実を図っていききたい。

「つかむ・たてる」の導入段階では，自分の好きな食べ物や給食の献立で使われている材料の多くが外国からの輸入されたものであることに気付かせ，食料自給率について関心をもたせる。次に，値段や輸送技術の発達により外国から輸入がしやすくなった要因をおさえる一方，資料から日本が他国と比べて極端に食料自給率が低いことに気付かせることで問題意識を高め，単元の学習問題へとつなげていく。そこから気付いたことや疑問に思ったことから自分の調べたいことを考え，グループ・全体で意見を出し合いながら単元の追究の柱を設定していく。

追究の柱の設定の際には、付箋紙等を利用し、整理・分類しながら内容の絞り込み・決定ができるようにしていきたい。

「調べる」段階では、追究の柱に沿って、個人で教科書や資料集、その他の資料等を使い、調べる視点をもって活動が進められるようにする。調べたことは、ノートやワークシートに簡潔にまとめさせる。

「まとめる・広げる」段階では、調べたことをグループで確認し、質問し合うようにし、学習問題に対する自分の考えにつなげていきたい。その後、自分の考えのまとめを基に、グループで意見交流を行い、友達の意見で聞いたことを生かしながら考えを深めさせる。その際、評価規準で設定された「思考・判断・表現」の学習状況をより分析的・具体的に表した尺度である「判断基準」を活用していく。児童間では、「判断基準」を活用した相互評価を行う。指導者は、「判断基準」を活用しながら児童の言語活動による思考・判断の過程やその結果としての表現を見取り、A・B・Cで評価することで補充・深化指導の内容の焦点化を図りたい。昨年度は、児童の「思考・判断・表現」の評価の尺度である「判断基準」の設定により、適切な評価を行えるようになった。今年度は更に、「判断基準」を生かした単元構成や適切な補充・深化指導に力を入れた授業作りを行うようにしたい。最後に学習したことを基に、自分の考えたことを身近なところから実践できるように意欲をもたせたい。

2 本単元の指導計画・評価計画

(1) 単元の目標

日本の食料生産が抱えている問題を調べ、食料を安定的に確保する必要性に気付かせる。

(2) 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
日本の食料生産が抱えている問題に関心を持ち、意欲的に問題を追究し、自分の行動を改めていこうとする。	日本の食料生産が抱えている問題について考え、今後の改善すべき点についてワークシートに表現している。	日本の食料生産の現状を、グラフや写真を通して適切に読み取っている。	日本の食料生産の現状や課題を捉え、食料を確保していくことの大切さを理解している。

(3) 本単元の指導計画・評価計画

指導計画（全5時間）

過程	時	主な学習活動	評価規準（観点）・【評価方法】
つかむ・たてる	1	<p>1 諸資料を見て、日本は食料の多くを輸入に頼っている実態を知り、食料自給率や身近な生活から日本の食料事情について考え、単元の学習問題を立てる。「読み取り」「解釈」</p> <p>単元の学習問題 日本の食料生産を高め、安心・安全な食料を確保するにはどうしたらよいのだろう。</p>	<p>諸資料から日本の食料生産の現状を理解している。</p> <p>（知識・理解）【発表】</p>

つかむ・たてる		<p>2 学習問題に対する予想を立て、調べたいことを出し合い、追究の柱をたてる。「解釈」</p> <p>追究の柱</p> <p>1 日本の食料生産を上げるには、どうしたらよいか。</p> <p>2 安心・安全を考えてどんなことに取り組んでいるのか。</p> <p>3 環境のことを考えてどんなことに取り組んでいるのか。</p>	<p>日本の食料生産が抱えている問題に関心をもち、進んで話合いに参加している。</p> <p>(関心・意欲・態度)【発表・活動の様子】</p>
調べる	2 ・ 3	<p>3 追究の柱について、資料を活用しながら調べる。「読み取り」「解釈」</p>	<p>日本の食料生産が抱えている問題について意欲的に追究している。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>【ワークシート・ノート記述】</p> <p>日本の食料生産の現状を、グラフや写真を通して適切に読み取っている。</p> <p>(技能)</p> <p>【ワークシート・ノート記述】</p> <p>日本の食料生産の現状や課題をとらえ、食料を確保していくことの大切さを理解している。</p> <p>(知識・理解)</p> <p>【ワークシート・ノート記述】</p>
まとめる・広げる	4 5 (本 時)	<p>4 追究した結果についてグループで確認し合い、伝え合ったことを基に、解釈・統合しながら学習問題に対する自分の考えをまとめる。「説明」「解釈」</p> <p>5 自分の考えをグループ内で発表し、意見交流を基に、再度学習問題に対する自分の考えをまとめる。「説明」「論述」</p>	<p>追究した結果を説明したり、友達の説明や資料を根拠に解釈したりして、まとめることができる。</p> <p>(思考・判断・表現)【ワークシート】</p> <p>日本の食料生産が抱えている問題について確認し、相互交流を通して今後の改善すべき点についてワークシートに表現している。</p> <p>(思考・判断・表現)【発表・ワークシート】</p>

3 本単元の「思考・判断・表現」における「判断基準」

評価規準【社会的な思考・判断・表現】	
日本の食料生産が抱えている問題について知り，今後の改善すべき点について相互交流で考察したり，判断したりして追究した結果を表現している。	
評価時期及び評価の対象	
5時間構成の第5時における終末時 学習問題に対して児童が自分の考えをワークシートにまとめた内容	
判断の要素	
ア 基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断 食料自給率の低下 食料の安全性や健康への配慮 自然環境への配慮	
イ 4視点で捉えた言語活動 論述（社会的事象についての考えを各種の資料を基に表現）	
尺度	判断基準
B	ア 基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断 食料自給率が低下への対応 食料の安全性や健康へ配慮 自然環境への配慮
	イ 4視点で捉えた言語活動 アの～を踏まえ，資料から読み取ったことを基に「食料生産」について考察したことを表現している。 （予想される児童の表現例） 食料自給率が低下しているため，国内での農産物の生産を高める工夫と努力が必要です。また，安心安全な食料を確保するには，生産地がはっきりしている国産や地元産の食料を買うことが大切です。それは，地元産の食料は輸送にかかる燃料が少なくて済み，二酸化炭素もあまり出さないの自然環境にも優しいからです。
C状況の児童への指導	判断基準Bを基に補充指導を行う。 ・ 日本の食料生産における問題点を再度提示し，どうすれば解決できそうかを考えさせる。 ・ 食料自給率の推移や食料の貿易額の推移に関するグラフを示すなどして，学習内容を振り返らせる。
A	（判断基準Bに加えて） 地域の現状を関連付けて考えたり，消費者として今後の自分の食生活の在り方について触れたりしている。
B状況の児童への指導	判断基準Aを基に深化指導を行う。 ・ 身近な地域の現状を考え，地域の食料生産を更に増やす方法がないか考えさせる。 ・ 自分の食生活を振り返り，改善できることはないか考えさせる。

4 「判断基準」を生かした授業作りにおける研究仮説




- (1) 「判断基準」を設定することで，教材研究の焦点化，授業における効果的な言語活動の設定が可能になり，児童の「思考力・判断力・表現力」を育成することができるであろう。
- (2) 「判断基準」を活用することで，児童の「思考・判断・表現」の評価を具体的な視点で行うことができ，評価を基にした補充・深化指導が可能になるであろう。





5 本時 (5 / 5)

(1) 目標

食料の安定的な確保について ,どのような工夫が必要か ,資料やこれまでの学習を基に自分の考えを整理・統合しながら論述することができる。 (社会的な思考・判断・表現)

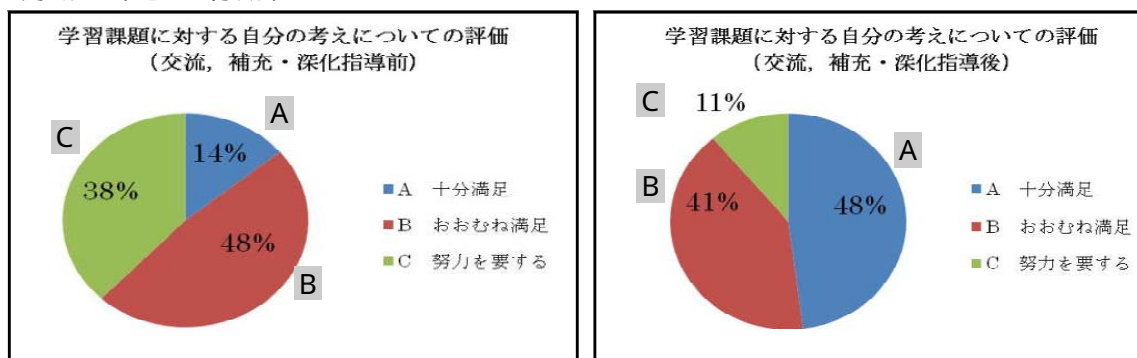
(2) 本時の指導過程

過程	主な学習活動	(形態) 時間	指導上の留意点 【 】充実させたい言語活動 評価 []評価方法
つ か む ・ た て る	<p>1 前時までの学習を振り返り , 本時の学習問題を設定する。</p> <p>日本の食料生産の問題は , どうすれば解決できるのだろうか。</p>  <p>2 学習の進め方を確認する。</p>	(一斉) 5分	<p>これまでの学習資料を提示し , 学習内容を想起させる。</p> <p>前時の学習までの流れを基に , 今回の学習内容を知らせる。その際 , 意見交流を通して一つの側面だけでなく , 多面的に考えていくことを押さえる。</p> <p>学習計画表 (指導者作成) を基に , 本時の学習の進め方を確認する。</p>
調 べ る	<p>3 これまで学んできたことを基に , 学習問題に対する自分の考えを発表し , 互いに意見を交流する。</p> <p>(1) 学習問題に対する自分の考えを発表する。</p>  <p>分かりやすかったな。環境のことも入れてみたらどうかな。</p> 	(グル ープ) 17分	<p>考えたことを互いに交流し合うことで , 「判断基準」で設定した三つの視点を確認し , 情報の共有化・関連性をもたせる。 【説明】【解釈】</p> <p>食料生産を高めるには耕地の面積を広くすることが大切です。その理由は , そうすることで地元や国産の食べ物が増えるからです。また , 安心・安全な食料を確保するために輸入品や国産のものを検査することが必要です。その理由は , 消費者がラベルを見てどこのものが分かり , 食べたいものを選べるからです。</p> <p>学び合いシートを使って , 互いに視点をもって評価・助言等することで , 自分の考えの修正への方向付けを図る。</p>

調 べ る	<p>(2) 意見を交流し、友達の考えも参考にしながら自分の考えを整理する。</p> 		<p>うまくまとめられない児童には、判断基準 B アの 3 点を踏まえて、関連付けながら学習課題に対する自分の考えをまとめさせる。【論述】</p>
	<p>4 グループ内で交流したことを基に、再度自分の考えをまとめる。</p> 	(個) 13分	<p>日本の食料生産が抱えている問題について確認し、相互交流を通して今後の改善すべき点についてワークシートに表現している。 (思考・判断・表現)[ワークシート]</p>
ま と め る	<p>5 学習問題に対する自分の考えを発表する。</p> 	(一斉) 10分	<p>机間指導の結果を基に、論述した内容を発表させる。</p> <p>食料自給率が低いことから、国内での生産を高める努力が必要です。また、安全な食料を食べることができるように、生産者ができるだけ農薬を使わずに低農薬や無農薬での作物を生産することも大切です。そして、自然環境を守るために大量の石油を使わないことが大切なので、輸送距離が短い、地元産の作物を地元で消費する地産地消の考え方も重要です。</p>
	広 げ る	<p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習への意欲をもつ。</p> 	

考察

1 「判断基準」の有効性



「判断基準」を基に評価・指導した後の変容

「判断基準」を基に児童の論述を評価した結果は上のとおりである。児童間の相互交流，指導者による補充・深化指導前の評価では，A 状況の児童は14%，B 状況の児童は48%，C 状況の児童は38%となっており，判断基準 B を満たしていない論述がおよそ4割見られた。しかし，児童間の相互交流，指導者による「判断基準」を基にした補充・深化指導を行った後は，A 状況に変容した児童が14%から48%に増加し，B 状況の児童が48%から41%，C 状況の児童が38%から11%に減少した。

このような変容がみられたのには，「判断基準」を設定したことで，児童の「思考・判断・表現」の評価を具体的な視点をもって行うことができたことと，その評価と「判断基準」を活用したことで，指導者にとって「どのような指導や助言が必要か」が具体的に分かり，評価を指導に生かすことができたためと考えられる。

このことから，「判断基準」を活用した「社会的な思考力・判断力・表現力」の見取りと評価を生かした指導は，「有効」であると考えられる。

2 「判断基準」の指導への活用

(1) 児童の相互評価表の活用

(2) 「判断基準」を活用した指導

本時における言語活動は，習得した 食料自給率の低下についての知識， 食料の安全性や健康への配慮についての知識， 自然環境への配慮の必要性についての知識を関連付けて考察し，食料生産について論述させたものである。～ の「判断基準」を設定したことで，具体的な視点をもって授業の計画が適切に行われ，また，授業中の指導及び授業後の補充・深化指導にも生かすことができた。

(3) 「判断基準」による見取りと補充・深化指導

本時の学習の評価は，児童に食料生産について「日本の食料生産の問題は，どうすれば解決できるのだろうか」という学習問題に対する答えを，ワークシートに論述させ，事前に設定した「判断基準」に照らして行った。

ア C「努力を要する」状況の例

食料生産を高めるには耕地の面積を広くすることが大切です。その理由は、そうすることで地元や国産の食べ物が増えるからです。また、安心・安全な食料を確保するために輸入品や国産のものを検査することが必要です。その理由は、消費者がラベルを見てどこのものかが分かり、食べたいものを選べるからです。

判断基準B
のアの・
については述
べているが、
については
正しく述べら
れていない。

この児童の論述は、判断基準Bのアの・の2点のみを述べているたC状況にとどまると評価した。

そこで、地球温暖化を示す資料を確認させるなどして、の「自然環境への配慮」についても、考察するよう補充指導を行ったことで、次のようにB状況となった。

日本の食料自給率は年々低くなっているので、食料生産を高め必要があります。安心・安全な食料を確保するために輸入品や国産のものを検査することが必要です。その理由は、消費者がラベルを見てどこのものかが分かり、食べたいものを選べるからです。自然環境を守るため、輸送のためにガソリンを多く使わなくてすむ地元産の農作物を購入することも大事です。

判断基準B
のアの・につ
いて、述べられ
ている。

判断基準B
のアの「自
然環境への配
慮」について
考察したこと
が加わった。

B 状況へ

イ B「おおむね満足できる」状況の例

食料自給率が低いことから、国内での生産を高める努力が必要です。また、安全な食料を食べることができるように、生産者ができるだけ農薬を使わずに低農薬や無農薬での作物を生産することも大事です。そして、自然環境を守るために大量の石油を使わないことが大切なので、輸送距離が短い、地元産の作物を地元で消費する地産地消の考え方も重要です。

判断基準B
のアの～
について、全
てを関連付け
て論述してい
る。

この児童の論述は、判断基準Bのアの～について、関連付けながら述べているためB状況であると評価した。

さらに、食の安全に関する資料などを提示し、消費者として食料問題をどう考えるか、また、自分自身の問題として、どう行動するかといったことについても論述するよう、深化指導を行い、その結果、A状況となった。

ウ A「十分満足できる」状況の例

日本では、食料自給率が低下してきている状況があるため、農家を保護したり、農業生産を高め、国内での生産を増やす努力をすることが重要です。消費者が安全な食料を安心して食べることができるように、生産者は「あいがも農法」を行うなど、無農薬・低農薬の作物を生産する努力をすることも必要です。

自然環境保護のためには、化石燃料を多く用いないことが重要なので、輸送にかかる燃料をおさえるために地産地消の考え方もあります。

これから自分にできることは、なるべく国産・地元産の物や、生産地・生産者などが分かっている物を買うようにしていくことです。

判断基準BのAの～について、全てを関連付けて論述している。

判断基準Aの消費者としてよりよい消費についての考察がなされている。

この児童の論述は、判断基準BのAの～を全て満たし、それらを関連付けて述べているとともに、判断基準Aの消費者として食料生産について、どう考え、どう行動すべきかという視点を加えて論述しているため、A状況にあたと評価した。

さらに、食料自給率が低下している現状について、具体的な数値などの根拠を示すよう指導することも考えられる。

研究のまとめ

1 研究の成果

児童の論述を見取るために、「判断基準」を活用することで、教師にとって「どのような指導や助言が必要か」が具体的に分かり、評価を指導に生かすことができた。

単元全体を通した評価や、評価を基にした補充・深化指導がしやすくなった。

2 今後の課題

判断基準Bを基に補充指導を行ったが、結果として3人がC状況に留まったので、全ての児童を確実にB状況にするための補充指導の在り方を、更に研究したい。

「思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価に関する研究」
～第3学年「暮らしとつながる政治」における言語活動の充実を通して～

志布志市立松山中学校
教諭 隈元 良仁

研究実践の視点

社会科における「思考力・判断力・表現力」とは、社会的事象から課題を見だし、社会事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連を多面的・多角的に考察し、公正に判断したことを適切に表現できる力と考える。

これまでの社会科学習においても、各種資料に基づいて社会的事象を考察したり、観察や調査などを通して追究した過程や結果を整理しまとめたりするなどの学習活動を行ってきた。したがって、その成果の積み上げを基に、これまでの社会科の指導を振り返り、言語活動の充実の視点を明確にして意図的、計画的に授業を構想していくことが社会科における言語活動の充実につながるとされる。しかし、生徒の言語活動をどのように評価するかが曖昧になっていることが課題となっている。

そこで本研究では、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価の在り方について研究を深めることとした。具体的には、前もって評価の「判断基準」を設定し、評価に活用することである。「判断基準」とは、評価規準で設定された生徒の思考・判断・表現の学習状況をより分析的に具体化した要素を含む尺度である。公民的分野の単元「暮らしとつながる政治」で、「判断基準」を作成し、言語活動を取り入れた検証授業を行い、生徒の言語活動についての「判断基準」を活用して評価し、その成果と課題について考察する。

研究の実際

1 教材観、生徒観、指導観

本単元は中学校学習指導要領社会科（公民的分野）の「政治の仕組みについて理解させ、地方公共団体の発展に寄与しようとする自治意識の基礎を育て、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義について考えさせる」ことをねらいとしている。さらに、「法に基づく公正な裁判があることについて理解させるとともに、民主政治を推進するためには、公正な世論の形成と国民の政治参加が大切であることに気付かせ、選挙の意義について考えさせる」ことをねらいとしている。

本単元で扱う、「議会制民主主義」「選挙の仕組み」「国会・内閣・裁判の仕組み」「地方自治」は、今後生徒が社会生活を送る上で、大切な内容であり、政治参加を積極的に行い、意思決定を行っていく態度を育てる重要な単元である。

本学級の生徒は、自分の考えを論理的に考え、落ち着いて行動することができる。しかし、一部の生徒は自分の考えを表現することが苦手なので、思考・判断したことを表現させるために、具体的な興味・関心を喚起できる新聞記事やICTを活用して言語活動の充実を図りたい。

本単元を指導するに当たって、生徒の意識を把握するために、「20歳になったら選挙に行きますか」「政治に興味がありますか」等のアンケート調査を実施した。その結果、の質問に対しては、「行く、多分行く」と答えた生徒が94%に達した。このことから、選挙に関しては関心が高いことが分かった。また、の質問に対しては「政治にあまり興味がない」と答えた生徒が77%に達し、その理由として「難しくよく分からない、興味がない」との意見が多かった。

そこで、本単元の指導に当たっては、政治が、私たちの生活と深く関わっていることを意識させながら授業を進めていきたい。

公民的分野の授業は、抽象的概念の理解になりがちなので、知識の理解だけに偏ることなく、具体的な事例を取り上げ、言語活動に力を入れながら、その理由や背景を探り、「私たちにどのような関係があるか」など生徒一人一人に考えさせることを大切にしながら指導していきたい。

2 単元の指導計画・評価計画

(1) 単元の評価規準「民主政治と政治参加」

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
<p>国や地方公共団体の政治に対する関心が高まっている。</p> <p>民主政治の基本的な考え方や、国や地方公共団体の政治の仕組みについて意欲的に追究している。</p>	<p>選挙は、主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であって、議会制民主主義を支えることを踏まえ、主体的に政治に参加することの意義について過程や結果を適切に表現している。</p> <p>政党の特色や課題を見だし、課題を対立と合意、効率と公正の視点から多面的・多角的に考察している。</p> <p>公正な裁判を行うために、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。</p> <p>国や地方公共団体の政治に関わる様々な事象から、課題を見だし、課題を多面的・多角的に考察して、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>国や政党、地方公共団体の政治の仕組みに関する資料を収集している。</p> <p>収集した資料の中から、自らが自らを治めるという民主政治の基本的な考え方や、その考え方に基づく国や地方公共団体の政治の仕組みについての学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p>	<p>多数決が民主的な方法として用いられるには説得と討論が必要で、多数決が公正に運用されるために、反対意見や少数意見が尊重されることを理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>日本の選挙の特色や課題を理解し、まとめている。</p> <p>政党の役割や国会が国権の最高機関であることを理解し、知識を身に付けている。</p> <p>内閣については、議院内閣制を採用していることを理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>公正な裁判で国民の権利が維持され司法権の独立が憲法で保障されていることを理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>地方公共団体の政治は、二つの機関を中心に行われ、政治は住民参加が基本であることを理解している。</p>

(2) 単元の指導計画・評価計画（全13時間）

過程	ねらい・学習活動・言語活動	評価の観点				評価規準等（観点）
		関	思	技	知	
第一次 (3時間) 『本時』	<p>【ねらい】選挙は、主権の存する国民の意志を政治に反映させるための主要な方法であり、議会制民主主義を支えるものであることを理解させ、良識ある主権者として主体的に政治に参加することの意義を考えさせる。</p>					
	<p>絶対王政やファシズムから議会制民主主義の発展を調べ、分かったことをノートに記述し、話し合う。 「読み取り」「解釈」</p> <p>多数決の意義や少数意見の大切さについて発表する。 「解釈」</p> <p>日本の選挙制度について調べ、分かったことをまとめる。 「読み取り」</p> <p>選挙の特色や課題を調べ、「選挙の意義」について自分の考えをまとめ、意見交換を行う。「説明」「論述」</p>					<p>過去の独裁政治と現在の政治の違いに着目して、議会制民主主義について意欲的に調べている。 (関心・意欲・態度)</p> <p>多数決を行う上の問題点を考察し、少数意見が尊重されることを理解している。 (知識・理解)</p> <p>日本の選挙の特色や課題を理解し、まとめている。 (知識・理解)</p> <p>日本の選挙の特色や課題を踏まえ、選挙の意義について「議会制民主主義」「国民の意思」などの概念を用いて、具体的に論述している。 (思考・判断・表現)</p>
第二次 (3時間)	<p>【ねらい】国権の最高機関で、国の唯一の立法機関である国会の仕事、同じ政治上の主張を有する者により組織された、政党の意義について理解させる。</p>					
	<p>国会の仕組みや仕事内容を国会中継やインターネットを活用して調べ、分かったことをノートに記入する。 「読み取り」</p> <p>日本にある政党の数や各政党の政策について、インターネットや図書を活用して調べる。 「解釈」</p> <p>インターネットや図書で調べた政党の特色についてまとめることができる。 「読み取り」「解釈」</p>					<p>国会の役割と種類、国会での仕事内容、法律ができるまでの過程を理解してまとめている。 (知識・理解)</p> <p>各政党の数や各政党の特色に関する資料を収集し、まとめている。 (資料活用)</p> <p>資料を基に我が国の政党の特色や課題を多面的・多角的に考察している。 (思考・判断・表現)</p>

第三次 (2時間)	【ねらい】内閣の仕組みや仕事を国会との関連性を踏まえて理解させる。		
	国会中継や総理のブログを調べ内閣や総理大臣の仕事内容をノートにまとめ発表する。「読み取り」「解釈」 日本の行政の課題を，新聞からまとめ，発表する。 「解釈」		総理や内閣の仕事内容，議員内閣制を理解してまとめている。 (知識・理解) 日本が抱える行政改革や財源問題の資料を読み取り，まとめている。 (資料活用)
第四次 (2時間)	【ねらい】司法権の独立と法による裁判が保障されていることにより，国民の権利が守られ，社会の秩序が維持されていることを理解させる。		
	裁判制度や司法権の独立，三審制の目的で分かったことをノートにまとめたり話し合ったりする。「読み取り」 刑事裁判事例で，どんな判決が望ましいか話し合う。 「説明」		裁判の種類や三審制の仕組みや法律制度を理解している。 (知識・理解) 検察と被疑者のそれぞれの主張の違いに着目し，自分の言葉で判決やその過程を説明している。 (思考・判断・表現)
第五次 (3時間)	【ねらい】志布志市の政治の仕組みや働きについて理解させ，志布志市の未来について考えさせる。		
	志布志市の政治の仕組みや働きについて調べ，まとめる。 「解釈」 住民の権利や義務について話し合う。 「説明」 志布志市が今後ますます発展するためにどうすればよいか市報を活用し意見交換する。 「論述」		地方自治の特色，代表民主制や首長と議会の関係をまとめている。 (知識・理解) 住民の自治意識や住民の権利と義務について調べ，意欲的にまとめている。 (関心・意欲・態度) 市報などの資料を読み取り，志布志市が抱える財源不足や少子高齢化に関する問題を考えまとめている。 (思考・判断・表現)






3 本時（第一次(3/3)）の「判断基準」

生徒の「思考・判断・表現」を，評価規準に基づき的確に評価するため，「判断基準」を設定した。「判断基準」の設定については，まず評価規準を基に習得させるべき社会

的な知識や概念を分析し、「判断の要素」を明確にする。この「判断の要素」からどのような内容をどのような目安で評価するかを考えて、具体的な「判断基準」を設定する。「おおむね満足できる」状況を示す基準が判断基準Bで、これを満たした場合はB状況、満たしていない場合は「努力を要する」C状況と評価する。なお、判断基準Bに基づき、予想される生徒の表現例を想定しておくことによって、生徒の実態に即した評価が可能となる。このような考えで、次のように「判断基準」を設定した。

評価規準【社会的な思考・判断・表現】	
日本の選挙の特色や課題を踏まえ、選挙の意義について「議会制民主主義」「国民の意思」などの概念を用いて、具体的に論述している。	
評価時期及び評価の対象	
第一次(3/3)の終末時 学習課題に対しての論述	
判断の要素	
ア 基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断 国民の意志を政治に反映させるための重要な方法 議会制民主主義を支える手段 主体的に参加できる権利	
イ 4視点で捉えた言語活動 論述（社会的事象についての考えを各種の資料を基に表現）	
尺度	判断基準
B	ア 基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断 選挙は，国民の意思を政治に反映させるという意義があること。 選挙は，議会制民主主義を支える手段であること。 選挙は，国民が主体的に政治参加できる権利であること。
	イ 4視点による言語活動 アの～を踏まえ，資料から読み取ったことを基に「選挙の意義」について考察したことを表現している。 （予想される生徒の表現例） 選挙は，国民が自らの意志を投票という形で政治に反映させるという重要な意義がある。したがって，選挙は議会制民主主義を支える手段であるとも言える。また，選挙権は国民が政治に参加する権利でもあり，先人の努力によって獲得してきたものである。
C状況の生徒への指導	判断基準Bを基に補充指導を行う。 ・ ノートやワークシートで，選挙の目的や意義について再度振り返らせる。 ・ 選挙に関する資料を具体的に提示し，学習を振り返らせる。
A	（判断基準Bに加えて） 選挙の意義と現在の状況との比較を行い説明がなされている。 今後の選挙の在り方や，将来自分たちが選挙をどう捉えていくかが説明されている。
B状況の生徒への指導	判断基準Aを基に深化指導を行う。 ・ 現在の選挙制度の特色や課題に着目させる。 ・ これからの選挙はどうあるべきか考察させる。

4 指導過程

過程	主な学習活動	形態 時間	指導上の留意点 () 観点 [] 評価方法
導入	1 写真を見て，撮影場所と，何をしているところかを考える。 2 前時の学習を振り返り，本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 選挙にはどんな意義があるのだろうか。 </div>	一斉 3分	1 知事選挙に関連する写真を基に，多くの予算をかけて，選挙権の保障がされていることを確認させ，学習意欲を高める。(関心・意欲・態度) 2 前時に各班が選挙に関して調べた資料を確認しながら，学習課題を設定させる。
展開	3 論題について賛成か反対か意見を述べる。 論題 「選挙権を18歳からにするべきである。」 4 論点について質疑・応答を行う。  5 再度，この論題に賛成か反対かをまとめ確認する。  6 意見が変化した生徒の根拠を確認していく。 7 今回の学習内容を基に，選挙の意義を考察し，投票率向上のPR文という形で論述していく。	一斉 5分 個人 5分 グループ 5分 一斉 5分 一斉 15分	3 各生徒に判断基準Bを根拠にさせながら，論題の長所や課題を考えさせる。 4 賛成・反対の立場から判断基準Bを根拠に論題について質疑・応答を行わせる。  5 お互いの意見を参考に再度考えさせる。  6 意見の変容が判断基準Bを根拠にしているかを確認させながら発表させる。 7 投票率向上プランから選挙の意義の判断基準Bを確認させる。鹿児島県知事選挙の投票率の現状を伝え，再度選挙の意義を考え，PR文を作成させる。(思考・判断・表現) <div style="text-align: right;">[ワークシート]</div>
終末	8 PR文(論述)を紹介し合う。  9 選挙の意義について以前書いた論述と今回の論述の比較を行う。 10 本時のまとめを行う。	一斉 3分 一斉 2分 一斉 7分	8 他の生徒のPR文と自分の文を比較することで，補足を行わせる。 9 単元が始まる前に書かせた記述との変容を確認させる。 10 判断基準Bを基に，本時の学習を振り返らせる。

考察

1 「判断基準」による指導

判断基準Bを踏まえ、習得した「選挙が国民の意思を政治に反映させる手段である」という知識、
「選挙が、議会制民主主義を支える手段である」という知識、
「選挙が、国民が主体的に政治参加できる権利である」という知識を関連付けて考察し、
「選挙の意義について論述させる言語活動を行った。」
～の「判断基準」を設定することで、
具体的な視点をもって授業の計画が適切に行われ、
また、授業中の指導及び授業後の補充・深化指導にも生かすことができた。

2 「判断基準」による見取りと補充・深化指導

本時の学習の評価は、生徒に「選挙の意義について「選挙の意義をふまえ、投票率を向上させるためにはどのように訴えればよいだろうか。」という学習問題に対する答えをワークシートに論述させ、事前に設定した「判断基準」に照らして行った。

(1) C「努力を要する」状況の例

選挙の意義は、現在日本では、高齢者が多くなり、若者が主体的に政治に参加し、議会制民主主義を支え、日本を支えなければいけない。だから、選挙向上のために、国民の意思を反映して、若者が主体的に参加できる手段を考えてあげれば良いと思います。例えば、若者の意見をまとめる場を設定したり、若者に政治家との交流の場を設定すれば良いと思います。

判断基準BのAのアについては、述べられている。

判断基準BのAのイについては、正しく述べられていない。

この生徒の論述は、判断基準BのAのアについては述べられているが、イについて正しく述べられていないため、C状況と判断した。

そこで、生徒が作成した調べ学習の資料（若者の選挙離れの現状や、選挙に行かない理由）や戦前の日本の選挙制度について再確認させるなどの補充指導を行ったことで、次のとおりB状況となった。

選挙には、国民の意志を政治に反映させることにより、議会制民主主義を支え、日本を支えるという意義があります。現在日本では、若者の投票率が低いという現状があり、選挙権が大事にされていません。だから、選挙は国民が主体的に政治に参加できる権利であるということをしっかりと理解し、特に若者は積極的に選挙に行くことが重要です。そのために、例えば、若者の意見をまとめる場を設定したり、若者と政治家との交流の場を設定すれば良いと思います。

判断基準BのAのイ・ロについては、述べられている。

現在の若者の投票率の現状から、判断基準BのAのイについて考察し、述べられている。

B 状況へ

(2) B「おおむね満足できる」状況の例

選挙は、国民の意思を政治に反映させるために実施するもの
です。

国民の意志により 法律を定める権限を選挙で選ばれた人々に
委ねるという方法を議会制民主主義といいます。

選挙によって国民は間接的に政治に参加することになりま
す。だから、選挙は国民にとって大切な権利であり、主体的に参
加していかなければなりません。

判断基準B
のAの ~
について、全
てを関連付け
て論述してい
る。

この生徒の論述は、判断基準BのAの ~ について述べられており、考察の結果を基に關連付けて論述しているため、B状況と判断した。

さらに、戦前の制限選挙についての資料を示して、現在の状況と比較させるなど、判断基準Aを基に深化指導を行った結果、次のとおりA状況となった。

選挙は、国民の意思を政治に反映させるために実施するもの
です。

国民の意志により 法律を定める権限を選挙で選ばれた人々に
委ねるという方法を議会制民主主義といいます。

選挙によって国民は間接的に政治に参加する権利をもってい
ます。しかし、現在の日本では、若者の投票率が低いという現状
があります。大事な権利を放棄せず、必ず投票に行くことが重要
です。

A 状況へ

判断基準B
のAの ~
について、全
てを関連付け
て論述してい
る。

判断基準A
の将来自分た
ちが選挙をど
う捉えていく
かが説明され
ている。

(3) A「十分満足できる」状況の例

選挙は国民の意思を政治に反映させる手段の一つです。また、
選挙は議会制民主主義を実現するための重要な制度です。だ
から国民は選挙権を行使して、主体的に政治に参加する必要があります。

近年、投票率の低下、特に若者の投票率低下が問題になってい
ます。理由は、政治に関心がない人がほとんどだからです。

将来は今の若者が社会を支えていかないといけないので、若
者の意見を反映させるためにも、もっと主体的に選挙に参加す
ることが大切です。

判断基準B
のAの ~
について、全
てを関連付け
て論述してい
る。

判断基準A
の将来自分た
ちが選挙をど
う捉えていく
かが説明され
ている。

この生徒の論述は、判断基準BのAの～について述べられているとともに、将来自分たちが選挙をどう捉えていくかが説明されており、自らの意見を述べているためA状況であると評価した。

さらに、若者の投票率低下について、なぜ「政治に関心がない人がほとんど」なのかということの根拠を示すよう指導することで、より客観的な論述になると考えられる。

研究のまとめ

1 成果

「判断基準」を設定して、これを活用して授業設計を行ったことで、授業のポイントを明確化することができ、生徒の思考・判断・表現の評価を的確に行うことができた。

C状況の生徒への補充指導を、判断基準Bに基づいて適切に行うことができた。

2 課題

全ての生徒を判断基準Bに到達させることができるようにするために、使用する資料の適切な選択や学習の展開の在り方について教材研究を更に深める必要がある。

「思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価に関する研究」
 ～第3学年「よりよく生きることを求めて」における言語活動の充実を通して～

県立穎娃高等学校
 教諭 福田 真望

研究実践の視点

中央教育審議会答申（平成20年1月）の、社会・地理歴史・公民の「改善の基本方針」には、「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識，概念や技能を確実に習得させ，それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から（中略）各種の必要な情報を集めて読み取ること，社会的事象の意味，意義を解釈すること，事象の特色や事象間の関連を説明すること，自分の考えを論述することを一層重視する」とある。これは，基礎的・基本的な知識を習得させ，思考力・判断力・表現力を育成するために，読み取り，解釈，説明，論述といった言語活動の充実を図ることである。このことを踏まえた昨年度の研究では，生徒の言語活動を「判断基準」の活用により適切に評価することが，思考力・判断力・表現力の育成につながることを明らかにした。その一方で，「判断基準」を活用し評価をした後の，生徒への補充指導，深化指導の在り方について課題が残った。そこで本年度は，「判断基準」に基づいた適切な指導と，評価後のきめ細かな補充指導，深化指導の在り方について研究を深めることとした。

研究の実際

1 生徒観，指導観

生徒に社会的な事象について考察させたり論述させたりするには，まず，生徒に考える視点（ポイント）を与えることが重要である。「について考えなさい」と言っても「何を，どのように」考えればよいか分からないので，十分な考察や表現ができない生徒が多いそこで，具体的な問い，考えるポイントを生徒に与えて考察させるようにする。例えば過去 現在 未来へと流れる時間軸と，自分 身の回り 日本 世界へ広がる空間軸の視点を生徒に与えることが考えられる（図1）

具体的な指導例を挙げると，「最近思うこと」という作文を書かせる場合，ただ「書きなさい」だけではなく，図2のような考えるポイントを与える。

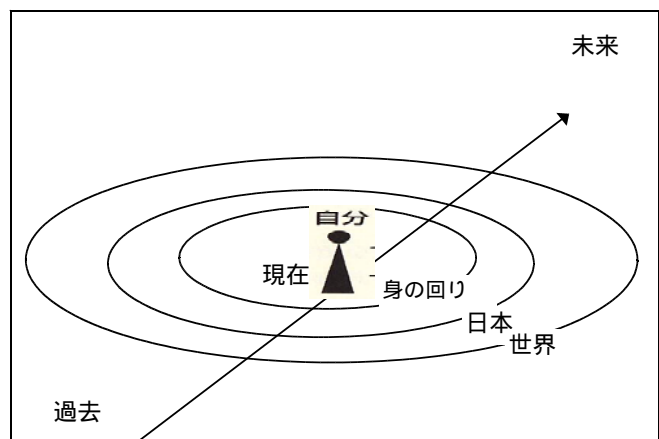


図1 考えるポイントの視点

- ・ ここ数日で，感動したことはなかったか（過去，自分）。
- ・ ここ数日で，腹の立ったことはなかったか（過去，自分）。
- ・ あなたがぼーっとしているときに，ふと思うことはないか（現在，自分）。
- ・ 何気ない日常生活の中で疑問に思うことはないか（現在，自分）。
- ・ 人間関係について思うことはないか（現在，身の回り）。
- ・ 学校生活で思うことはないか（現在，自分）。
- ・ 今，切実に思っていることはないだろうか（現在，自分）。
- ・ 将来の自分について考えたとき，思うことはないだろうか（未来，自分）。

図2 「最近思うこと」についての考えるポイント

このような指導を行った上で、「現在，自分」を考えるポイントとして生徒が記述した表現例が図3である。

最近思うこと
学校での私の席は、一番後ろの窓際です。そこから視界に入ってくる色はたくさんの緑でした。もちろん他にも空の色や雲といったものの様々な色がありましたが、私の目を引いたのは葉や草の緑でした。そして、穎娃町はお茶の畑がいたるところにあって本当に町が緑一色だなと思いました。その緑一色の風景も観察していると一日一日少しずつどこか違っていることに気がきました。また、二階から見る緑一色の風景と自分が歩いて見る緑一色の風景とでは同じものでも違った雰囲気のような気がして、少し目線を変えるだけで色々な面を知ることができて、得をした気分でした。
最近、私は風景だけでなく、人と接するときにもそういう気持ちをもつことができれば大変良いのではないかと思うようになりました。例えば、嫌いだと思った人がいたら、その人の嫌いな部分から目線を変えて良い部分を見つけたいと思えば、新しい発見や、自分の相手に対する意識も和らいでいくのではないのでしょうか。そう思ったらやはり得した気分になれました。

図3 「最近思うこと」についての作文

考えるポイントを与える指導を計画的・継続的に行うことで、生徒は自ら考えるポイントを見だし、教師が考えるポイントを与えなくても生徒自らで考えられるようになると思う。つまり、考えるポイントを与える指導は生徒の思考力・判断力・表現力を育成すると考える。

次に、文章を書くことが苦手な生徒への指導である。文章を構成することが苦手な生徒に対しては、適切に表現させる指導を行う。具体的には、考察して得た結論とその過程を、根拠などを示しながら発言、記述させることである。その際、第三者によりよく伝えられるように表現させることが必要である。その上で留意するのは、問いに対する結論と根拠を論理的に表現させることである。論理的に表現させるとは、A

例 国会が「国権の最高機関」であることの説明
日本国の主権者は国民である。国民から国政選挙で選ばれたのが国会議員である。国会議員が集まり話し合いをする場所が国会である。つまり、国会は主権者である国民の意見を代弁する場所である。このことから、国会が「国権の最高機関」と言える。

図4 論理的な表現の例

問 衆議院の優越が認められているのはなぜか。
衆議院のほうが参議院より民意を反映しているからである（結論）。衆議院が参議院より民意を反映していると言えるのは、以下の三つの点からである（トピックセンテンス）。まず、衆議院は参議院より議員定数が多い点である。次に、衆議院は参議院より任期が短いという点である。そして、衆議院には解散があるという点である。（まず～、次に～、そして～という書き方に沿って述べられた根拠）

はBである、BはCである、CはDである、DはEである、というように筋道を立てて表現させることである（図4）。また、これから述べることを端的に示すための文章であるトピックセンテンスを用いることや、「まず～、次に～、そして～」という書き方を用いることも第三者によりよく伝えるための表現の方法である（図5）。

図5 第三者によりよく伝えるための表現の方法の例

2 単元の指導計画

- (1) 単元名 よりよく生きることを求めて
- (2) 単元の目標

ア 現代社会について関心を高め、その本質や特質を自らの在り方や生き方について意欲的に追究しようとする態度を養う。 【関心・意欲・態度】

イ 現代社会についての特色や、現代社会における自らの在り方や生き方を多面的・多角的に考察させ、そのことで得た結論と過程について根拠などを示しながら適切に表現させる。 【思考・判断・表現】

ウ 資料から、現代社会の本質や特質、自らの在り方や生き方についての的確に読み取らせる。 【資料活用の技能】

エ 愛、自由、幸福、正義といった倫理的な価値について、先哲の思想の学習を通じて理解を深めさせる。 【知識・理解】

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会について関心を高め、その本質や特質、自らの在り方生き方について意欲的に追究しようとしている。	現代社会についての特色や、現代社会における自らの在り方生き方を多面的・多角的に考察し、考察して得た結論とその過程を、根拠などを示しながら表現している。	資料から、現代社会の本質や特質、自らの在り方生き方についての確に読み取っている。	愛、自由、幸福、正義といった倫理的な価値について、先哲の思想の学習を通して理解を深めている。

(4) 指導計画・評価計画(5時間)(が本時)

	学習活動	評価
1	1 よく生きるということ 人間にとってよく生きることが大切であり、そこに人間らしさがあることを資料から読み取る。 古今東西の愛についての考え方を学習し、他者との関係の中で生きることの大切さを考える。	<ul style="list-style-type: none"> よく生きることについて意欲的に追究しようとしている。【関心・意欲・態度】 先哲の思想から、よく生きることの意味や愛の在り方について考察している。【思考・判断・表現】
2	2 近代科学の考え方 近代社会を出現させた近代科学の考え方(ベーコンやデカルトの思想)を資料を基に解釈する。	<ul style="list-style-type: none"> ベーコンやデカルトの思想を学習することを通して、近代科学の発達が、私たちの生活を飛躍的に向上させ豊かにしてきたことを理解する。【知識・理解】 近代科学の考え方の背景にある機械論的自然観や人間中心主義の考え方が生み出した現代社会の諸問題には、どのようなものがあるか考察する。【思考・判断・表現】
3 (本時)	3 人間の尊厳 カントやサルトルの思想や、日本国憲法の内容を踏まえて、「自由」の概念についての理解を深め、根拠などを示しながら表現する。	<ul style="list-style-type: none"> カントやサルトルの考えた「自由」や日本国憲法に触れられている「自由」についての学習を通して、「自由」という倫理的な価値についての理解を深めている。【知識・理解】 「自由」についての自分なりの考えを、根拠などを示しながら表現している。【思考・判断・表現】
4 5	4 日本人のものの考え方 資料(21世紀に生きる君たちへ)を活用し、古くから日本人に身に付いた伝統的な考え方の特徴についての確に読み取る。 5 外来文化の受容と日本の伝統思想 資料(日本を創った12人)を活用し古来日本人が外来の文化をどのように受容し、それを発展させて思想を形成してきたかについての確に読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> 資料(21世紀に生きる君たちへ)から古くから日本人に身に付いた伝統的な考え方の特徴についての確に読み取っている。【資料活用の技能】 資料(日本を創った12人)から、古来日本人が外来の文化をどのように受容し、それを発展させて思想を形成してきたかについての確に読み取っている。【資料活用の技能】

(5) 本時の判断基準の設定

本時では、「自由」について、先哲と生徒の問題意識を共有させることなどを通して、生徒のもつ「自由」についての見方や考え方を成長させたい。そのため、「自由」についての観点を明確にしていくつかの例を取り上げ、生徒がもつ「自由」という倫理的な価値について思索を深められるような指導を行い、学習したことを踏まえて、「『自由』について」考えたことを表現させる。

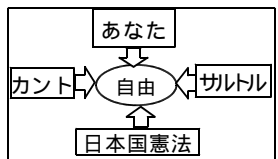


その際、考察して得た結論とその過程を、根拠などを示しながら記述するように助言し、考察

の過程や結論を第三者によりよく伝えられるように表現させた。このような考えの下、次のように「判断基準」を設定した。

評価規準【思考・判断・表現】	
「自由」についての自分なりの考えを、資料等を根拠にしながら第三者によりよく伝えられるように筋道を立てて論述している。	
評価時期及び評価の対象	
本時の終末時 「自由」について自分なりの考えを論述したワークシート	
判断の要素	
ア 基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断 「自由」の概念 先哲の思想 日本国憲法における「自由」	
イ 4視点で捉えた言語活動 論述（社会的事象についての考えを各種の資料を基に表現）	
尺度	判断基準
B	ア 基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断 「自由」とはどのようなことかについて考察している。 カントやサルトルの思想を踏まえながら考察している。 日本国憲法の特徴等を踏まえながら考察している。
	イ 4視点で捉えた言語活動 アの～を踏まえ、資料から読み取ったことを基にして「自由」について考察したことを表現している。
（予想される生徒の表現例） カントはいかなる場合でも欲望に負けず理性の出す命令に従うことが「自由」として定義付け、サルトルは「自由」とは自分自身で全てのことを決定し決断することであると、決断に当たっては責任をもたなければならないとした。また、日本国憲法では「自由」が保障されているものの、自分の人権のみを主張し、相手の人権を無視することは許されていない。 こうしたことを踏まえ、私たちは自分だけでなく、社会の中でどう生きるかを考えて、責任をもって「自由」を行使しなければならないと思う。	
C状況の生徒への指導	判断基準Bを基に補充指導を行う。 ・ カントやサルトルの思想，日本国憲法の特徴等について確認させる。 ・ 定型文を示すなどして根拠を示しながら説明させる。
A	（判断基準Bに加えて） 「自由」に関するこれまでの経験，身近な事柄を踏まえて、「自由」についての自分なりの考え，人間としての在り方生き方について考察し論述している。
B状況の生徒への指導	判断基準Aを基に深化指導を行う。（学習した内容を踏まえた創造的な発想をさせるために……） ・ 学校生活における事例など，生徒の経験と学習内容を関連付けて，思考を深めさせる。

3 本時の指導過程

	学習活動	評価の観点	T：教師	S：生徒	指導上の留意点
導入	前時に論述した『自由』とはどのようなものかについて、他者の論述の内容を聴く。		T		
	T： 前回の授業で、あなたの考える「自由」とはどのようなものであるかについて論述をしてもらいました。みなさんの論述に多く見られたものが、「自由とは、何の制約も受けずに自分のやりたいことをやりたいようにやる」という趣旨のものでした。では、これから配布する資料中の主人公の行動は「自由」な行動であるといえるのでしょうか。				
7分	『火垂の墓』を基に「自由」とは何かを考える。		T		
	T： 主人公の行為は「自由」な行為といえるのでしょうか。 S ₁ ： 「自由」が、「何の制約も受けずに自分のやりたいことをやりたいようにやる」ということであれば、主人				資料を読み取り、病気の妹のために他人の畑から野菜を盗むという行為が「自由」という観点から許される行為であるかを考えさせる。

	<p>公の行為は「自由」な行為といえます。しかし、病気の妹のためとはいえ、他人の畑から野菜を盗むという行為を自由な行為と捉えてもよいのでしょうか。何だか違和感があります。</p> <p>S₂ : 「自由」とは何なのだろう。私たちが考えている「自由」とは、別の考え方もありそうです。</p> <div data-bbox="343 313 933 526" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題 「自由」とは何かについて、カント、サルトルの思想、日本国憲法の内容から学習する。</p>  </div>	
<p>展開 20分</p>	<p>カントの考えた「自由」について資料から読み取る。</p> <p>T : カントは人間と動物の違いは何だと言っていますか。教科書から読み取ってください。</p> <p>S₃ : 物事を判断する心の働きである「理性」をもっているかどうかの違いです。</p> <p>T : ではカントの考える「自由」とは、どのようなものですか。教科書と配布した資料(図6)から読み取ってください。</p> <p>S₄ : いかなる場合でも理性の出す命令に従い行為することがカントのいう「自由」です。</p> <p>S₅ : 理性は「いかなる場合も嘘をついてはならない」という命令を出します。この命令に常に従うことがカントのいう「自由」です。殺人者から友人をかばうために嘘をつくこともいけないなんて、カントの考える「自由」は厳しい。</p> <p>サルトルの考えた「自由」について資料から読み取る。</p> <p>T : サルトルは、「自由」をどのようなものであると考えたのでしょうか。配布した資料(図7)から読み取ってください。</p> <p>S₃ : 「自由」とは自分で決めることです。自分で決めたことには自分で責任を取らなければなりません。だから、不安な気持ちになります。サルトルは「自由」を「決断」であり、「責任」、「不安」と考えました。</p> <p>T : では、自ら「決断」し「責任」をとれることであれば、どのような行為をしてもよいのでしょうか。</p> <p>S₄ : みんながそのようなことを考えて好き勝手なことをしたら社会が成り立たなくなります。</p> <p>T : そうですね。人間は社会の中で生きています。ですから、よりよい社会をつくるために「決断」し「責任」を取れるような行為が求められています。サルトルはこのことを社会参加(アンガージュマン)と捉えました。日本国憲法に触れている「自由」について話し合おう。</p> <p>T : 日本国憲法の第21条に居住・移転・職業選択の自由が認められています。このことから、私はある二つのことを決めました。一つは、居住の自由が認められているので、穎娃高校の正門前の国道に家を作り住むということです。もう一つは、職業選択の自由が認められています。私は急に医者になりたくなったので、明日から私はお医者さんです。開業することにしました。私が決めたこれらのことは許されるでしょうか。</p> <p>S₃ : 許されません。</p> <p>T : なぜですか。日本国憲法で保障されているのに？</p> <p>S₄ : サルトルのところでも学習しましたが、社会的に認められる行為でなければならないと思います。国道に家を作ったらみんなが通行できなくなります。また、医者になりたいというだけで、医者の免許ももっていない人が勝手に医者を名乗り診察したらみんなの迷惑です。</p> <p>T : そう、みんなの迷惑ですね。日本国憲法の第13条、第21条、第22条、第29条を見てください。これらの条文を見たときに共通してある言葉が入っているのに気付きますか。</p> <p>S₄ : 「公共の福祉に反しない限り」です。</p> <p>T : そうです。これは簡単に言うと、「周りのみんなの迷</p>	<div data-bbox="957 582 1420 952" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 カント 人間と動物の違い… 理性をもっているかどうか。</p>  <p>理性 物事を判断するための心の働きで、「人間であればこうしなさい」という命令を出す。</p> <p>いかなる場合でも欲望に負けず、理性の出す命令に従い、行動することが自由である。</p> </div> <p style="text-align: center;">図 6</p> <div data-bbox="957 1019 1420 1377" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2 サルトル</p> <p>自由とは、自分で自分のことを全て決定していくこと、決断することである。自分で決断したことは責任をとらなければならない。この責任は、自分だけでなく他人に対しても負わなければならない。なぜなら、人間が社会の中で他人と共に生きている以上、自分の決断が他者の人生に必ず何らかの影響を及ぼすからである。(後略)</p>  </div> <p style="text-align: center;">図 7</p> <div data-bbox="957 1444 1420 1971" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3 日本国憲法 日本国憲法第12条,13条,22条,29条の中に共通して見られる文言 <u>公共の福祉</u></p> <p>いくら憲法で自由が保障されているといっても、自分の人権のみ主張し相手の人権を無視することは許されない。</p> <p>人権の対立に折り合いをつけるために用いられるのが、公共の福祉である。「公共の福祉に反しない限り」という憲法の文言は、かみ砕いて言うと、「周りのみんなの迷惑にならない限り」ということができる。</p> <p>個人の権利は最大限尊重されるべきである。しかし、個人の自由のために周りのみんなが迷惑を被るのであれば、個人の自由の制限、つまり、国や社会の利益を優先させることもやむをえない。これは、人間が社会の中で共同生活を営む以上、必要なルールである。</p> </div> <p style="text-align: center;">図 8</p>

	<p>惑にならない範囲で」という意味です。つまり、日本国憲法では様々な自由を保障していますが、これらは「周りのみんなの迷惑にならない範囲で自由」という意味です。資料(図8)を読んでください。</p> <p>S₄ : 社会でみんなと生きているわけだから、他人のことなども尊重しながら、その中で自分の在り方生き方を選びとることが「自由」ということなのかかもしれませんね。</p> <p>『火垂るの墓』の主人公の行為について次の点から考える。 カントやサルトルなら「自由」な行為と捉えるか。 日本国憲法の内容から「自由」な行為と捉えられるか。</p>					
<p>展開 20分</p>	<p>本時の学習内容を踏まえて、「自由」について自分なりに考えたことを論述する。 思考・判断・表現</p> <p>板書事項</p> <p>考えるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習で「自由」についての考え方は変わったか? 変わったならどのように変わったか? 「自由」の考え方を学習して、これからどのような心持ちで生きていきたいか? <p>論理的に表現する。 AはBである。BはCである。CはDである。... 文章の前後のつながりを意識して表現する。</p> <p>(資料より)日本の株価の下落率は、どの国よりも低い。つまり(低いということは)、日本は他の国と比べ景気がいい。だから(景気がいいから)、投資家たちは日本の会社の株をほしくなる。その(日本の会社の株を買う)ために、円が必要となってくる。それで(円が必要になるので)、外国為替市場にドルを売り、円を買う。その(円を買う)結果、円高になる。</p>	<p>考えるポイントを与える。 論理的な表現で適切に論述するように指導する。</p> <p>論理的な表現の例として、以前生徒によって論述されたものを紹介した。</p>				
<p>まとめ 3分</p>	<p>論述した内容を交流する。</p> <table border="1" data-bbox="311 1102 917 1473"> <tr><td>今まで考えていた自由とは、自分の好きなことを好きなだけして周りの人の迷惑は、考えていなかった。</td></tr> <tr><td>今日の学習で、カントやサルトル、日本国憲法などをみ、すべからずにおいて、「人として正しいことを行い、周りのみんなの迷惑にならない範囲で自由にすることはよいとされている。</td></tr> <tr><td>このことを学び、私が考えた「自由」は、人の迷惑にならない限り、自分の意見も最大限に尊重されるべきということです。</td></tr> <tr><td>人が、社会のなかで楽しく生活していくためには、人に迷惑をかけるはいけないのは最低限のレベルなので、それを守り、かつ、自分の意見も持ていきたい。</td></tr> </table>	今まで考えていた自由とは、自分の好きなことを好きなだけして周りの人の迷惑は、考えていなかった。	今日の学習で、カントやサルトル、日本国憲法などをみ、すべからずにおいて、「人として正しいことを行い、周りのみんなの迷惑にならない範囲で自由にすることはよいとされている。	このことを学び、私が考えた「自由」は、人の迷惑にならない限り、自分の意見も最大限に尊重されるべきということです。	人が、社会のなかで楽しく生活していくためには、人に迷惑をかけるはいけないのは最低限のレベルなので、それを守り、かつ、自分の意見も持ていきたい。	<p>生徒数人に発表させ、自分の論述と比較させながら、判断基準Bをみたしているかどうか考えさせる。</p>
今まで考えていた自由とは、自分の好きなことを好きなだけして周りの人の迷惑は、考えていなかった。						
今日の学習で、カントやサルトル、日本国憲法などをみ、すべからずにおいて、「人として正しいことを行い、周りのみんなの迷惑にならない範囲で自由にすることはよいとされている。						
このことを学び、私が考えた「自由」は、人の迷惑にならない限り、自分の意見も最大限に尊重されるべきということです。						
人が、社会のなかで楽しく生活していくためには、人に迷惑をかけるはいけないのは最低限のレベルなので、それを守り、かつ、自分の意見も持ていきたい。						

4 補充指導・深化指導の実際

(1) 「判断基準」による指導

本時においては、習得した「自由」の概念、カントとサルトルの「自由」の思想、日本国憲法における「自由」の概念などを関連付けて考察させ、自由の概念を論述させる言語活動を行った。「判断基準」を設定することで、具体的な視点をもって授業の計画が適切に行われ、また、授業中の指導及び授業後の補充・深化指導にも生かすことができた。

(2) 「判断基準」による見取りと補充・深化指導

本時の学習の評価は、「自由とは何か」ということについてワークシートに論述させ、事前に設定した「判断基準」に照らして行う。

(1) C「努力を要する」状況の例

自由とは、好きなことをして、自分の生きたいように生きる
ことではなく、他の人のことも考えながら行動することである。
日本国憲法にも「公共の福祉に反しない」限り認められてい
るものである。

判断基準Bの
アの・につ
いては述べてい
るが、につ
いては述べられて
いない。

この生徒の論述は、判断基準Bのアの について述べられていないため、C状況であると評価した。この生徒へは判断基準Bを基に基礎的・基本的知識を定着させ、考えるポイントを与えるとともに論理的に表現させる補充指導を行うことでB状況となった。

具体的には、生徒に論述を返却する際、C状況という評価だけでなく、内容と構成について次のようなコメントを書き添え、補充指導を行った。

内容について
カント、サルトルの自由についての思想、日本国憲法における自由について、
教科書 p72 - p73, 授業プリント(本稿では図6 - 図8)で復習しましょう。
・ カントのキーワード ... 理性
・ サルトルのキーワード ... 責任, 社会参加
・ 日本国憲法のキーワード... 公共の福祉
構成について
・ 自分の意見を述べた後、そのように考えた理由を述べましょう。
・ 「AはBである。BはCである。CはDである。」というように、文章の
前後のつながりを意識して論理的に表現しましょう。



次は、補充指導後の生徒の論述である。これは、判断基準Bを全て満たしており、B状況と判断した。

私は自由とは好きなことをして、自分の生きたいように生き
ること、人からの意見などに左右されず、自分の決めたことをす
ることだと思う。しかし、カントが言うように、それは理性を
無視した動物的なものではない。自分の生きたいように生きると
言っても、社会の中でみんなで生きているわけだから、みんなの
迷惑になるような生き方はいけないと思う。サルトルが言うよ
うに積極的に他の人や社会のことも考えながら行動することであ
る。
日本国憲法にある「公共の福祉に反しない」限り認められて
いるということは、自分で決めたことに責任はしっかりととらな
ければならないものであると思う。

判断基準B
のアのにつ
いての考察が
加わった。

B 状況へ

(2) B「おおむね満足できる」状況の例

カントが「理性の出す命令に従うこと」、サルトルが「積極的な社会参加のための決断」と言ったように、自由とは決断であり責任が伴う。すなわち、自由を行使するためには、日頃の自分の発言や行動に責任をもってきちんとしなければならぬのである。また、日本国憲法にある「公共の福祉に反しない限り」という条件をクリアできて、初めて自由が保障されるのだと思う。

判断基準BのAの～について、全てを関連付けて論述している。

この生徒の論述は、判断基準BのAの～について述べられており、全てを関連付けて論述しているので、B状況と判断した。

さらに、考えるポイントを示し、文章の前後のつながりを意識して論理的に表現するなどの深化指導を行うことで、A状況となると考える。

具体的には、論述を返却する際に評価だけでなく、内容と構成について以下のようにコメントし、判断基準Aを基にした深化指導を行った。

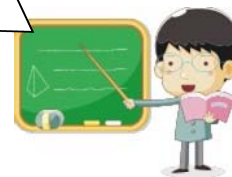
内容について

以下の考えるポイントを踏まえて、自由について考えてみましょう。

- ・ カントやサルトル以外に自由について考えた人物はいないか。いるならば、その人物の考えはどのようなものであったか。そして、あなたはその人物の考えをどのように思うか。
- ・ 「自由とは」という定義だけでなく、自由な生き方をするためにはどのようなことを心掛ければよいか。また、どのような社会であればよいか。
- ・ これまでに、自由に関連する経験はなかったか。

構成について

- ・ 「AはBである。BはCである。CはDである。」というように、文章の前後のつながりを意識して論理的に表現しましょう。



(3) A「十分満足できる」状況の例

自分の思ったことを発言したり行動したりするためには、周りから自分の存在が受け入れられていることが前提になる。例えば、いつもはクラスの中で好き勝手な振る舞いをしていて、何かあったときだけクラスメートに協力をお願いしても受け入れてもらえない。

判断基準BのAの～について、全てを関連付けて論述している。

カントの言う「理性の出す命令に従うこと」、サルトルの言う「積極的な社会参加のための決断」から考えると、自由とは理性ある決断であり責任が伴う。すなわち、自由を行使するためには日頃の自分の発言や行動に責任をもってきちんとしなければならぬのである。

また、日本国憲法の自由権の条文で、「公共の福祉に反しない限り」と規定しているように、自分のことだけでなく他人のことも尊重することも忘れてはいけない。それらのことができて、初めて自由が保障されるのだと思う。

判断基準Aの「自由」に関する身近な事柄を踏まえて、自分なりの考えや人間としての在り方や生き方について考察し論述している。

この生徒の論述は、判断基準BのAの ~ について述べられているとともに、加えて判断基準Aの「自由」に関する身近な事柄を踏まえて、自分なりの考えや人間としての在り方や生き方について考察し論述しているため、A状況と判断した。

さらに、将来のことや社会全体のことについても、具体的に考えてみるように深化指導を行うことが考えられる。

5 考察

図9は、補充指導、深化指導を行う前と行った後の評価の変容を示したものである。C状況の生徒のほとんどがB状況に変容した。また、3人の生徒がB状況からA状況に変容した。これは、判断基準を基に、何をどのように表現すればよいか、個に応じた具体的な補充指導、深化指導ができたためであると考えられる。

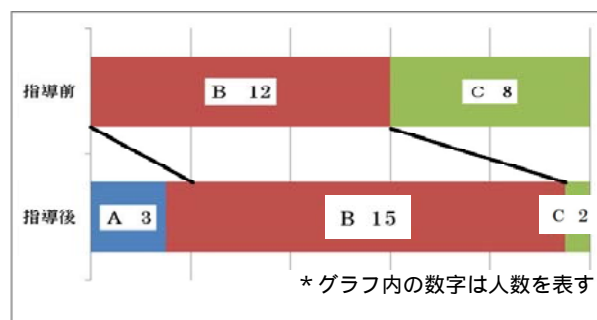


図9 補充・深化指導による生徒の変容

このことより、基礎的・基本的な知識・概念を定着させたり、考えるポイントを与え適切に

表現させたりする補充・深化指導は、生徒の基礎的・基本的な知識・概念を定着させ、思考力・判断力・表現力を育成する上で極めて効果的であると考えられる。

その中で、今後考えなければならない点は、B状況からA状況への変容が少なかったことから、判断基準Bから判断基準Aの論述ができるようにするための更なる指導の工夫が必要であるという点である。

研究のまとめ

1 成果

「判断基準」を設定する過程において授業の視点が明確になり、学習の目標がぶれない授業を行うことができた。

「どういう視点が加われば、Aの評価になりますか。」という積極的な質問をする生徒も現れるなど、生徒の学習意欲の向上にもつながった。

2 課題

B状況の生徒が判断基準Aを満たす論述ができるようにするための、具体的な指導の視点を明らかにしておく必要がある。